

「主体的な学び」推進委員会通信

第2号
令和7(2025)年6月 日
小郡市教育委員会



5月29日(木)に、「福岡県重点課題研究指定・委嘱事業」の連絡協議会と兼ねて、小郡市の「主体的な学び」推進委員会と教員一日留学体験研修を開催しました。

授業公開では、三国小学校の島田 龍 先生に4年生の外国語活動の授業を公開していただき、研究報告と協議では、研究構想と授業についての質疑応答の後、義務教育課の指導主事よりご意見をいただくとともに、専門委員である福岡教育大学の坂井清隆教授よりまとめと指導助言をいただきました。

そこで、今回の通信では、公開授業の様子、協議会でのご意見・ご指導及び参加した先生からの感想を紹介します。

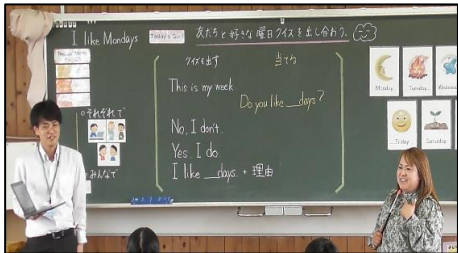
【連絡協議会の様子】



4年4組(外国語活動)「I like Monday.」 授業者 島田 龍 先生

主眼

クイズ活動に向けて自らの学習課題に応じて学習内容を選択することを通して、“What day do you like?”や“I like~days.”といった表現に慣れ親しむことで、相手に配慮しながら自分の好きな曜日を伝え合おうとすることができる。

	主な学習活動	実際の様子												
導入	○教師とALTとのデモンストレーションを見て、 本時のめあてをつかむ。  全部の曜日を覚えて英語で言いたいな。 ヒントを工夫してクイズを楽しみたいな。													
展開	本時の自己選択・自己決定の場 ○ クイズ活動に向けて、自らの学習課題に応じて、学習内容を選択する。【内容選択】 <table><tr><td>目標</td><td colspan="3">好きな曜日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむリアクションやジェスチャーを用いて伝え合おうとする</td></tr><tr><td>内容</td><td>クイズで使う英語をまだうまく言えないな</td><td>やりとりの仕方を上手にできるようにしたいな</td><td>友達の良いところを真似してみたいな</td></tr><tr><td>方法</td><td>お手本カードを聞きながら話す練習をする。</td><td>教師やALTに聞いたり一緒に練習したりする。</td><td>友だちと練習や助言をし合う。</td></tr></table>	目標	好きな曜日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむリアクションやジェスチャーを用いて伝え合おうとする			内容	クイズで使う英語をまだうまく言えないな	やりとりの仕方を上手にできるようにしたいな	友達の良いところを真似してみたいな	方法	お手本カードを聞きながら話す練習をする。	教師やALTに聞いたり一緒に練習したりする。	友だちと練習や助言をし合う。	【イヤホンで発音を聞いて個人練習】  【先生から助言】 【ペアで練習】 
目標	好きな曜日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむリアクションやジェスチャーを用いて伝え合おうとする													
内容	クイズで使う英語をまだうまく言えないな	やりとりの仕方を上手にできるようにしたいな	友達の良いところを真似してみたいな											
方法	お手本カードを聞きながら話す練習をする。	教師やALTに聞いたり一緒に練習したりする。	友だちと練習や助言をし合う。											
終末	○学習を振り返る。 【振り返りの視点】 ●「うまくいった・できた／理由」 ●「難しかった・できなかった／理由」 ●「これからの学習でがんばりたいこと」 	●友だちの好きな曜日を聞き取れて、自分の好きな曜日とその理由を英語で発言できてうれしかったです。 ●友だちの好きな曜日を当てる時に苦戦しました。 ●この経験を生かして他の友だちにも英語で聞いてみたいです。												

授業者: 島田 龍先生より授業を振り返って

外国語活動において学習内容を自己選択することは、普段と比べて発展的なことであるため、児童にとって困難さを感じさせるかもしれないと不安もありました。しかし実際は、児童が自分の課題に応じて練習する時間があつたことで、自信をもって最終活動に臨むことができていました。一方で、自己の課題を自ら把握することの難しさがありました。そのため、客観的な自己分析（友達や先生によるアドバイスや、自分のやりとりの様子を動画で記録して視聴するなど）の場面を充実させていくことが必要であると感じました。

ICT 教育推進委員: 江嶋 悠先生より

これまで私は、授業は「教師主導で進めていかなければならない」という意識が強く、ICT 機器も一斉に使わせることが多かったです。しかし、「自己調整学習」に着目して学校全体で研究し授業改善を進めていくうちに、教師側がすべきことは、「子ども達が学ぶ環境を整えること」、「自己選択の場、自己決定の場を意図的に設定していくこと」だと気付きました。また、外国語活動の授業を参観して、子ども達が学習内容を自己選択するには、前時でのふり返りの際に、自分自身の課題を把握しておくことが重要であると感じました。

福岡県教育庁教育振興部 義務教育課より

【永田 浩之 指導主事】

三小小学校が「自己選択・自己決定」に焦点化して取り組んでいることは価値がある。学校全体で日常的に「自己選択・自己決定」を授業に取り入れていこうとする姿を見ることができた。今後、「内容選択と方法選択」の整理を進めてほしい。

【永海 哲広 指導主事】

子どもたちにとって「やってみたい」と思う真正な課題設定があつたことで、「楽しい」と感じる授業になっていた。子どもたちは個々の目標が違っていたかもしれないので、それぞれのめあてを立て、モニタリングしながら自己調整力を発揮させてほしい。

【森 将和 主任指導主事】

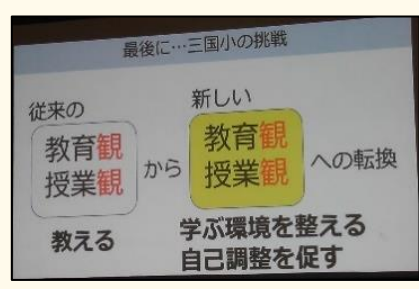
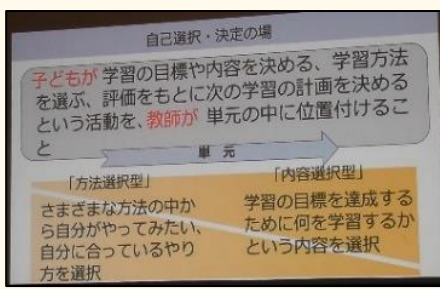
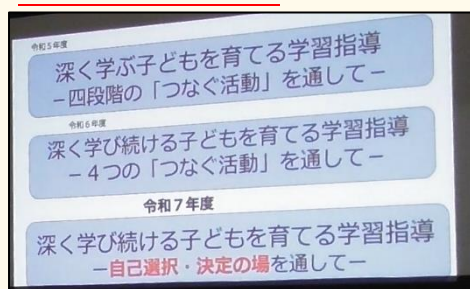
3 年間取り組んできた研究実践を俯瞰的に見て、共通点や差異点、発達の段階や教科による特性等を整理してほしい。また、三小が取り組んでいる「教える」から「学ぶ」への教育観の転換に関わる成果を多くの学校に広めてほしい。

専門委員 福岡教育大学教職大学院 坂井 清隆 教授より

三小小学校の研究は、自分で学習を調整したり、他者と協働したりしながら目標を達成する力をもった子どもを育てる課題から、令和4年度よりスタートし、最終年度である今年度は、深く学び続ける子どもを育成するために、自己選択・自己決定の場を設定することに焦点化してきています。

自己選択・自己決定の場を設定する上で大切なのは、子どもが自己選択・自己決定（「方法選択型」と「内容選択型」）する場を教師が単元の中に位置付けることです。

このような三小小学校の挑戦に期待することは、従来の「教える」ことを重要視してきた『教育観』や『授業観』から、教師が学ぶ環境を整え、子どもの自己調整を促すといった新しい『教育観』・『授業観』への転換を図ることです。11月21日の最終報告会も楽しみにしております。



参加した先生からの感想（ポートフォリオより一部抜粋）

- 全体で一つの「めあて」だけではなく、子どもたち一人ひとりの「めあて」を設定した方がいいこと。教師も今日の授業の「めあて」があり、子どもと一緒に学ぶ教師の姿があることなど、今後の「主体的な学び」の方向性を示していただいたと思います。
- 自校に生かしたいこととしては、学びの振り返りを全教科に共通するものを位置付け、子ども自身が内容や方法を選ぶ経験を積ませていきたい。また、単元や教科の枠にとらわれず、失敗から学べる柔軟な学級をつくり、子どもたちが自分の学びを位置付け、方向転換できるようにしていきたい。
- 主体的に学んでいくには、そこにいくまでの環境づくりが大切だと考えます。交流するときの言葉や言葉遣い、自分自身のめあてをもって取り組む姿勢、どの友達とも交流することができそうな安心できる学級づくり、学習規律など、土台がしっかりしていないとうまくいかないことが多い授業だと考えます。
- 共通のゴールを決めてしまうとどうしても一斉授業になってしまい、子どもたちの課題意識が薄れてしまう。自己の課題意識に応じた方法や学習内容を選択し、自己調整できるように手立てを考えていきたいと感じた。